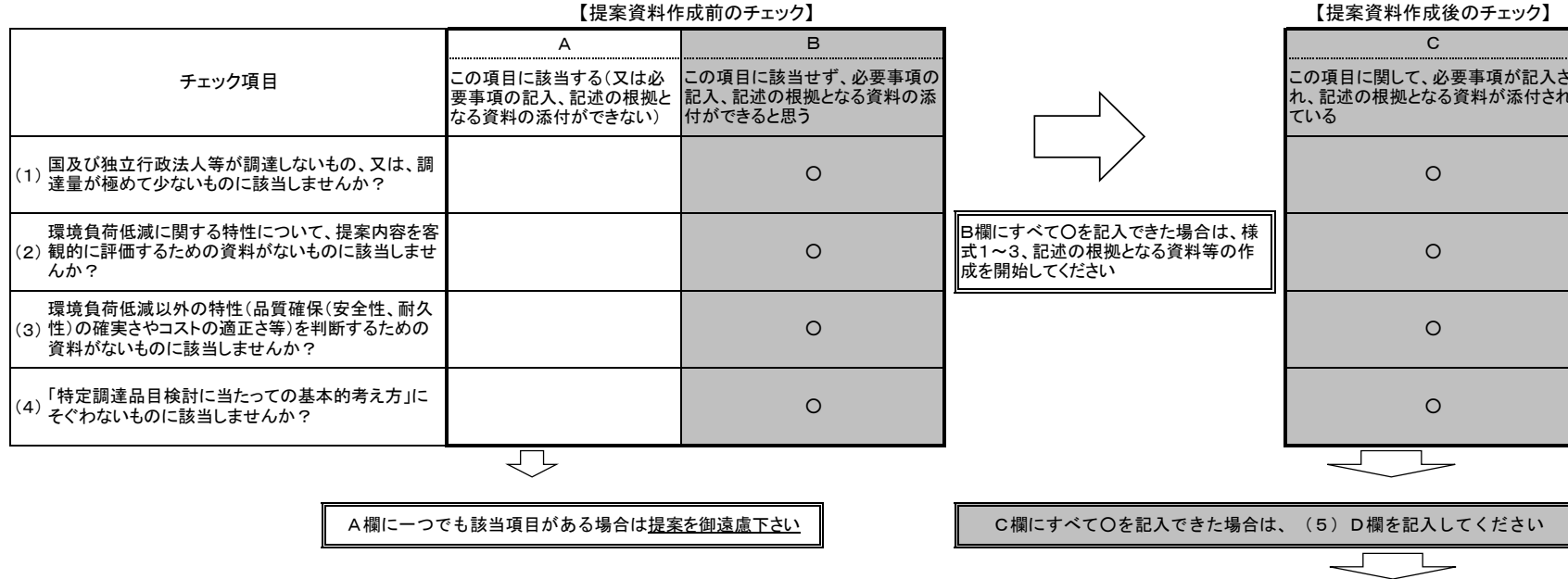


提案品目自己チェック票

【様式0:記入例】

注意) 特定調達品目としての検討は、提案者の責任において提供された情報に基づいて実施します。万が一、提供された情報に故意に虚偽の内容が含まれている場合、又は記入内容に疑義が発生した場合は検討を取り止める場合がありますので、あらかじめ御了承ください。

- ① 記入要領に従って、提案予定品目について(1)～(4)のチェックを実施してください。
- ② 以下のチェックの結果、B欄にすべて○を記入できた場合は、様式1～3と、その記述の根拠となる資料等の作成を開始してください。
- ③ 提案資料作成後、提出の前に再度自己チェックを行い、C欄に○を記入してください。
- ④ 各資料の有無を確認してD欄に○を記入してください。



(5) 提出資料と必要部数を確認の上、提出してください。

提出資料種類		D
①【様式0】提案品目自己チェック票(本票)	提案品目ごと	○
②【様式1】特定調達品目提案書	提案品目ごと	○
③【様式2】提案品目の概要	提案品目ごと	○
④【様式3-1】及び【様式3-2】提案品目の特性	提案品目ごと	○
⑤上記④の記述の根拠となる資料(様式不問)	提案品目ごと	○

【様式1:記入例】

環境省大臣官房環境経済課 あて

〇〇年〇〇月〇〇日

特定調達品目提案書


提案者名 (会社・団体名等)	〇〇工業株式会社			印	
代表者名	役職	代表取締役社長	氏名	環境 太郎	印
所在地	〒	123-4567			
	住所	東京都千代田区霞が関1-2-2			
担当者連絡先 (事務局からの 連絡先になります)	部課名	環境部商品企画課			
	役職名	課長			
	氏名	環境 次郎			
	電話番号	03-1234-5678	内線	1234	
	FAX	03-1234-9876			
	電子メール アドレス	kankyo@〇〇kogyo.co.jp			
	郵便物等 の送付先	〒			
住所					

所在地と同じ
場合は記入

【様式2: 記入例】

提案品目の概要

グリーン購入法の趣旨に基づき、特定調達品目として、以下の品目を提案します。

(1)提案品目の分野	該当する分野を選択 	その他	
	「その他」の場合は分野名記入	△△△△	
(2)提案品目名 (昨年度提案を行った品目の再提案の場合は下欄にも記入)	〇〇〇〇		
	昨年度 の提案 品目名		昨年度 の提案 者名
(3)提案品目の概要	使用済み◇◇を回収・処理し再資源化した◇◇を使用した〇〇〇〇		
(4)提案品目の環境負荷低減の特徴	原料として再生〇〇を△%以上使用していることから廃棄物の抑制になる		
(5)判断の基準(案)	原料として再生◇◇を△%以上使用していること		
(6)比較対象	××××を使用している〇〇〇〇		
(7)既存の環境基準 環境ラベル等	エコマーク商品類型No.〇〇		

* 提案品目名と概要、グリーン調達品目としての判断の基準(案)等を記入して下さい。
(具体的な商品名の提案は御遠慮下さい。)

提案品目の特性(物品)

【様式3-1】-物品(記入例)

提案者名	〇〇工業株式会社	←	記入不要
提案品目の分野	その他	←	記入不要
提案品目名	〇〇〇〇	←	記入不要
比較対象	××××を使用している〇〇〇〇	←	記入不要

(1)環境負荷低減に関する特性

①ライフステージ別・環境負荷項目別の環境負荷の評価

「資源採取」、「製造・流通」、「使用」及び「循環・廃棄」の各ライフステージにおいて、比較対象品目との比較で各環境負荷項目において「優れる」、「同程度」、「劣る」のいずれか該当する欄に \surd を付けて下さい。(比較の困難な「優れる」点と「劣る」点がある場合は、両方に付けてください。)

「環境負荷の内容と程度に関する自己評価」については、可能な限り定量的かつ簡潔に記入してください。また、その根拠となる資料を別途提出してください。

ライフステージ 環境負荷項目	A.資源採取 資源採取 原料調達	B.製造・流通 製造 搬送	C.使用 使用開始 ～使用済	D.循環・廃棄 使用済～再利用 使用済～廃棄	環境負荷の内容と程度に関する自己評価(「優れる」又は「劣る」が存在する場合必ず記入)		添付資料 (番号等)
					「優れる」点	「劣る」点	
I 資源の枯渇	<input type="checkbox"/> 優れる <input checked="" type="checkbox"/> 同程度 <input type="checkbox"/> 劣る	<input checked="" type="checkbox"/> 優れる <input type="checkbox"/> 同程度 <input checked="" type="checkbox"/> 劣る	<input type="checkbox"/> 優れる <input checked="" type="checkbox"/> 同程度 <input type="checkbox"/> 劣る	<input type="checkbox"/> 優れる <input checked="" type="checkbox"/> 同程度 <input type="checkbox"/> 劣る	・設計に当たってエコデザインを導入し、強度を保持したまま比較対象品に比べ金属部分の厚さを2mm薄くすることにより、原料として使用する金属資源の使用量が〇〇kg/トン削減できる	・成形加工の薄化工程において、従来の工程に比べ原油換算 $\Delta\Delta$ kl/トンのエネルギー消費量の増加となる	別添資料×
II 地球温暖化	<input type="checkbox"/> 優れる <input checked="" type="checkbox"/> 同程度 <input type="checkbox"/> 劣る	<input checked="" type="checkbox"/> 優れる <input type="checkbox"/> 同程度 <input type="checkbox"/> 劣る	<input checked="" type="checkbox"/> 優れる <input type="checkbox"/> 同程度 <input type="checkbox"/> 劣る	<input type="checkbox"/> 優れる <input checked="" type="checkbox"/> 同程度 <input type="checkbox"/> 劣る	・製造段階の二酸化炭素は150kg-CO ₂ /トンの削減に対しメタンは4kg-CH ₄ /トン(=84kg-CO ₂ /トン)増加。総排出量では66kg-CO ₂ /トンの削減 ・使用段階において比較対象品に比べ約30%の消費電力量の削減が図られる		・二酸化炭素は別添資料〇 ・メタンは別添資料△
III オゾン層破壊	<input type="checkbox"/> 優れる <input checked="" type="checkbox"/> 同程度 <input type="checkbox"/> 劣る	<input type="checkbox"/> 優れる <input checked="" type="checkbox"/> 同程度 <input type="checkbox"/> 劣る	<input type="checkbox"/> 優れる <input checked="" type="checkbox"/> 同程度 <input type="checkbox"/> 劣る	<input type="checkbox"/> 優れる <input checked="" type="checkbox"/> 同程度 <input type="checkbox"/> 劣る			
IV 生態系への影響	<input type="checkbox"/> 優れる <input checked="" type="checkbox"/> 同程度 <input type="checkbox"/> 劣る	<input type="checkbox"/> 優れる <input type="checkbox"/> 同程度 <input checked="" type="checkbox"/> 劣る	<input type="checkbox"/> 優れる <input checked="" type="checkbox"/> 同程度 <input type="checkbox"/> 劣る	<input type="checkbox"/> 優れる <input checked="" type="checkbox"/> 同程度 <input type="checkbox"/> 劣る		・生産工程の排水に含まれる有機汚濁物質による水生生物への影響	
V 大気汚染	<input type="checkbox"/> 優れる <input checked="" type="checkbox"/> 同程度 <input type="checkbox"/> 劣る	<input type="checkbox"/> 優れる <input checked="" type="checkbox"/> 同程度 <input type="checkbox"/> 劣る	<input checked="" type="checkbox"/> 優れる <input type="checkbox"/> 同程度 <input checked="" type="checkbox"/> 劣る	<input type="checkbox"/> 優れる <input checked="" type="checkbox"/> 同程度 <input type="checkbox"/> 劣る	・使用段階において比較対象品に比べ約20%の窒素酸化物の排出削減が図られる ・プラスチック部分にオレフィン系樹脂を使用しているため仮に焼却した場合においてもダイオキシン類を発生しない	・使用段階において比較対象品に比べ約5%の粒子状物質の排出増加がみられる(別添資料※参照)	別添資料※
VI 水質汚濁	<input type="checkbox"/> 優れる <input checked="" type="checkbox"/> 同程度 <input type="checkbox"/> 劣る	<input type="checkbox"/> 優れる <input type="checkbox"/> 同程度 <input checked="" type="checkbox"/> 劣る	<input type="checkbox"/> 優れる <input checked="" type="checkbox"/> 同程度 <input type="checkbox"/> 劣る	<input type="checkbox"/> 優れる <input checked="" type="checkbox"/> 同程度 <input type="checkbox"/> 劣る		・生産工程において排水に含まれる窒素が5mg/トンを増加している	

提案品目の特性(物品)

【様式3-1】-物品(記入例)

提案者名	〇〇工業株式会社	←	記入不要
提案品目の分野	その他	←	記入不要
提案品目名	〇〇〇〇	←	記入不要
比較対象	××××を使用している〇〇〇〇	←	記入不要

(1)環境負荷低減に関する特性

①ライフステージ別・環境負荷項目別の環境負荷の評価

「資源採取」、「製造・流通」、「使用」及び「循環・廃棄」の各ライフステージにおいて、比較対象品目との比較で各環境負荷項目において「優れる」、「同程度」、「劣る」のいずれか該当する欄に✓を付けて下さい。(比較の困難な「優れる」点と「劣る」点がある場合は、両方に付けてください。)

「環境負荷の内容と程度に関する自己評価」については、可能な限り定量的かつ簡潔に記入してください。また、その根拠となる資料を別途提出してください。

ライフステージ 環境負荷項目	A.資源採取 資源採取 原料調達	B.製造・流通 製造 搬送	C.使用 使用開始 ～使用済	D.循環・廃棄 使用済～再利用 使用済～廃棄	環境負荷の内容と程度に関する自己評価（「優れる」又は「劣る」が存在する場合必ず記入）		添付資料 (番号等)
					「優れる」点	「劣る」点	
VII 化学物質汚染	<input type="checkbox"/> 優れる <input checked="" type="checkbox"/> 同程度 <input type="checkbox"/> 劣る	<input checked="" type="checkbox"/> 優れる <input type="checkbox"/> 同程度 <input type="checkbox"/> 劣る	<input type="checkbox"/> 優れる <input checked="" type="checkbox"/> 同程度 <input type="checkbox"/> 劣る	<input type="checkbox"/> 優れる <input checked="" type="checkbox"/> 同程度 <input type="checkbox"/> 劣る	・比較対象品目で使用されているPRTR法の対象物質である〇〇を使用していない		
VIII 固形廃棄物の発生	<input type="checkbox"/> 優れる <input checked="" type="checkbox"/> 同程度 <input type="checkbox"/> 劣る	<input type="checkbox"/> 優れる <input checked="" type="checkbox"/> 同程度 <input type="checkbox"/> 劣る	<input type="checkbox"/> 優れる <input checked="" type="checkbox"/> 同程度 <input type="checkbox"/> 劣る	<input checked="" type="checkbox"/> 優れる <input type="checkbox"/> 同程度 <input type="checkbox"/> 劣る	・筐体に利用している〇〇の回収・リサイクルシステムにより発生する廃棄物の削減が図られる	回収・リサイクルシステムは別添資料☆	
IX その他の環境負荷	<input type="checkbox"/> 優れる <input checked="" type="checkbox"/> 同程度 <input type="checkbox"/> 劣る	<input type="checkbox"/> 優れる <input type="checkbox"/> 同程度 <input checked="" type="checkbox"/> 劣る	<input type="checkbox"/> 優れる <input checked="" type="checkbox"/> 同程度 <input type="checkbox"/> 劣る	<input type="checkbox"/> 優れる <input checked="" type="checkbox"/> 同程度 <input type="checkbox"/> 劣る	・製造段階において硫化水素及びトルエンの臭気濃度がそれぞれ約10%の増加となる		

②ライフサイクル全般にわたる環境負荷の評価



▼

トレードオフはあるが、比較対象より環境負荷低減上、有利と考えられる理由	MiLCA v2による特性化、統合化評価の結果、比較対象品より環境負荷の低減が図られることが確認されている(別添資料〇〇参照)。
-------------------------------------	--

「トレードオフ」: 二律背反。ある側面ではAがBに比べて優れるが、別の側面ではBがAに優れる、というような関係のこと。

例えば、比較対象と比べて大気汚染物質の排出量が小さいものの、地球温暖化の原因物質である二酸化炭素排出量は大きいというような異なる環境負荷項目間のトレードオフの場合。また、同じ環境負荷項目内においても、例えば、「大気汚染」の項目内において、窒素酸化物(NOx)は削減されるものの、粒子状物質(PM)は増加するというようなトレードオフの場合など。

【様式3-2】-物品(記入例)

提案品目の特性(物品)

提案者名	〇〇工業株式会社	←	記入不要
提案品目の分野	その他	←	記入不要
提案品目名	〇〇〇〇	←	記入不要
比較対象	××××を使用している〇〇〇〇	←	記入不要

(2) 基本的な機能・品質の確保

<ul style="list-style-type: none"> ・〇〇法施行令第×条「〇〇〇の品質及び材質の基準」に適合 ・日本工業規格(JIS××××)に適合 ・(一社)日本〇〇協会の認定登録済
--

(3) 生産・供給状況

提案品目に該当する製品の生産量は〇〇千個/年であり、比較対象品目を含めた全生産量△△△千個/年の10%(平成29年度実績)。また、東北、関東、近畿地方の7社において提案品目に該当する製品を生産中であり、物流システムも確立しているため、全国で入手が容易(別添資料※参照)。

(最大10製品まで。行の挿入等は禁止。書き切れない場合は別途一覧表を添付)

	製造者名	商品名	価格
提案する判断の基準(案)を満足する製品	〇〇工業株式会社	〇〇〇〇〇	4,800~6,000
	:	:	:
	:	:	:
	:	:	:
	:	:	:
	:	:	:
	株式会社△△	△△△△△	4,500~5,500

(4) 納入実績

年度	納入機関名	数量等	備考
25	環境省	200箱	Aタイプ24個入り
25	独立行政法人〇〇研究機構	50箱	Aタイプ24個入り
25	××大学	400箱	Bタイプ24個入り
:	:	:	:
:	:	:	:
29	環境省	300箱	Aタイプ24個入り
29	独立行政法人△△センター	20箱	Bタイプ24個入り
29	××大学	500箱	Bタイプ24個入り

【様式3-2】-物品(記入例)

提案品目の特性(物品)

(5) 価格

比較対象品目の価格帯より数%~10%程度高めであるが、原料となる××××の供給増による価格低減が進んでいる。また、今後3年間で生産工場を四国及び九州地方に設けることから、生産量の増加(約20%)と併せ、輸送コストの低減等より価格低減が実現するものと見込まれる(別添資料※参照)。

提案する判断の基準(案)を満足する物品の標準的価格又は価格帯	4,500円~7,000円
比較対象とする物品の標準的価格又は価格帯	4,000円~6,800円

(6) ほかの環境負荷低減手法

未利用資源である◇◇を原料に使用することによる廃棄物の発生抑制等

(7) 提案による環境負荷低減効果の概要

〇〇を製品に利用することで、通常の同等製品に比べてCO₂が80%削減できる。

詳細なデータ及び資料については、別添資料▲参照。

ただし、製品価格が同等製品より、50%程度上昇する。

(8) その他

特になし

提案品目の特性(役務)

提案者名	〇〇サプライ株式会社	← 記入不要
提案品目の分野	役務(サービス)	← 記入不要
提案品目名	××××のリユース	← 記入不要

(1) 環境負荷低減に資する役務に関する特性

① 環境負荷低減に資する役務の内容及び実施方法等

環境負荷低減に資する業務の内容	環境負荷低減に資する業務の実施方法	比較対象となる業務の実施方法
××××のリユース	使用後の××××を回収・リユース	使用後の××××を廃棄するレンタル

② 環境負荷低減に関する特性

(①の環境負荷低減に資する業務の内容の項目ごとに記載)

××××のリユース

環境負荷項目	環境負荷低減の内容と程度	環境負荷増大が懸念される内容と程度	備考
① 資源の枯渇	リユースにより新規××××製造を抑制し、資源使用量を大幅に削減	リユース可能な状態にするための洗浄水の使用及び化石燃料の消費、回収運搬段階の化石燃料の消費	別添資料※参照
② 地球温暖化	廃棄からリユースに転換することにより、焼却時における温室効果ガス排出が削減	回収運搬段階の二酸化炭素排出及びリユース可能状態にするためのエネルギー消費に伴う温室効果ガス排出	〃
③ オゾン層破壊	なし	なし	オゾン層破壊物質は不使用
④ 生態系への影響	なし	リユース可能状態にするための戦場に伴う洗浄水に含まれる水質汚濁物質による水生生物への影響	別添資料※参照
⑤ 大気汚染	なし	回収運搬段階の大気汚染物質排出及びリユース可能状態にするための化石燃料消費に伴う大気汚染物質排出	〃
⑥ 水質汚濁	なし	リユース可能状態にするための戦場に伴う洗浄水に含まれる水質汚濁物質の増加	〃
⑦ 化学物質汚染	廃棄からリユースに転換することにより、焼却時における温室効果ガス排出が削減	なし	〃
⑧ 固形廃棄物の発生	従来廃棄されていたものをリユースすることで廃棄発生量を大幅に削減	なし	〃
⑨ その他の環境負荷	なし	なし	

【様式3】— 役務(記入例)

③ 基本的な機能・品質の確保

リユースに当たっては、回収後、洗浄等と併せ、必要な補修を施すとともに、次回の再使用に耐えられるかの検査を実施している。検査に当たっては「×××リユース協議会」で策定した「×××のリユースに係る品質保持ガイドライン」(別添資料◇参照)に基づき機能及び品質の確保を図っている。

(2) 供給状況・納入実績・価格等

① 供給状況

提案する役務を提供できる主な事業者としては、×××リユース協議会会員10社であり、内8社が全国展開を行っている(10社のシェアは合計で約15%)。搬送及び回収システムが整備されているため、全国で調達が可能。

② 供給事業者等の状況

	実施事業者等名称	商品(サービス)の名称	価格
提案する判断の基準(案)を満足する役務	〇〇サプライ株式会社	〇〇〇	4,500円/1件
	株式会社日本××××	×××	4,200円/1件
	：	：	：
	：	：	：
	：	：	：
	：	：	：
	：	：	：
	：	：	：
	東京△△株式会社	△△△	5,500円/1件

③ 納入(契約)実績等

年度	納入(契約)先	納入(契約)件数等	備考
25	環境省	2件	〇〇研修所他
25	独立行政法人〇〇研究機構	1件	〇〇研究所
25	××大学	1件	××校舎
：	：	：	：
：	：	：	：
29	環境省	2件	〇〇研修所他
29	独立行政法人△△センター	5件	△△会館
29	××大学	1件	××校舎

④ 価格

従来からの標準的な使い捨て×××の価格は5,000円/月程度であるが、協議会会員企業の価格帯は4,200円～5,500円/月であり、ほぼ同等である(平成29年度実績)。平成30年度末を目途に、回収に当たっての物流システムを協議会会員間で共有・整備する予定であることから、さらにコストダウンが図られるものと見込まれる。

提案する判断の基準(案)を満足する業務の標準的価格又は価格帯	4,200円～5,500円/月
比較対象とする業務の標準的価格又は価格帯	5,000円/月

⑤ ほかの環境負荷低減手法

×××を回収し、可能な部分をリサイクルした環境物品を使用したもの

【様式3】— 役務(記入例)

(3) 使用する環境物品の種類

使用する環境物品の種類	使用する環境物品の仕様	従来使用していた物品の仕様
再生材を用いたコンテナ	再生プラスチックを80%使用	バージンプラスチックを使用

(4) 役務全般に関する評価・特記事項

リユース回数により環境負荷低減効果は異なるが、リユース回数が増えることに伴い1回当たりの環境負荷低減効果が大きくなる。別添資料※においては、リユース回数を5回としているが、協議会会員企業の平均リユース回数は約10回となっており、更なる環境負荷低減効果が見込まれる。

(5) 提案による環境負荷低減効果の概要

このスキームを利用することにより、現行のスキームと比較して、温室効果ガスが60%以上削減できる。詳細なデータは別添資料※を参照。